



南国リゾートの趣が漂うツーバイフォー工法によるヴィラが建ち並ぶ。施設名の「URUUMI」は沖縄の言葉でサンゴを意味し、建物の外装は幸運の象徴である白いサンゴをモチーフにした塗り壁仕上げ。景観に配慮し、電線は地中に埋め込まれている。

全15棟の大型リゾートプロジェクト

沖縄の気候風土に適応する 2×4工法のプライベートヴィラ

青い海とサンゴ礁に恵まれた沖縄屈指のリゾート地である恩納村。2025年8月にオープンしたこの宿泊施設は、一棟貸しのプライベートヴィラ14棟と管理棟で構成されています。1年を通して高温多湿で台風が多い沖縄では、住宅や商業施設は鉄筋コンクリート造が主流ですが、このプロジェクトではツーバイフォー工法が採用されました。「建設費が高騰するなかで、地域にとって持続可能な建築を求めた結果、経済性・快適性・地域受容性のすべてを併せ持つ木造という選択に至ったのです」と事業主は話します。

約2,600㎡の敷地はひとつの街をつくるように、中央の通り沿いに全15区画に分けられ、2階建て3棟、3階建て11棟のプール付きヴィラと平屋建ての管理棟が南国の植栽を取り入れた外構工事と合わせて計画されました。面構造で耐風性の高いツーバイフォー工法ですが、風圧力の大きい沖

縄で3階建ての十分な耐風設計を確保するために短辺方向の壁量確保や開口制限といった諸条件を満たしながら、居心地の良さと多様な平面構成、プライバシーを追求。客室棟の建物はいずれもリビング・ダイニングや寝室の配置、プールの位置、アプローチの方向等が綿密に検討されました。

施工を担当したのはツーバイフォーの実績が多く、沖縄特有の湿害・シロアリ対策に長けた地元の住宅会社。構造耐力上主要な部分に人体への安全性や効果の持続性の高いホウ酸系の木材保存剤で防蟻・防腐処理を施し、地下のシロアリ対策としてベタ基礎を犬走りまで一体に打ち、その上に立ち上げや玄関ポーチを打つことで蟻道を遮断しました。「近年は住宅以外に店舗や事務所、共同住宅等でもツーバイフォー工法の建物が増えています。沖縄の木造建築の常識を変えていきたい」と住宅会社の代表は熱く語ります。



夜はライトアップで敷地全体を非日常的な空間に演出。



アプローチ部分。外壁は角をアールにするため、サイディングではなく、塗り壁仕上げとした。



建設時撮影のドローン写真



配置図 アプローチ道路を敷地の中心に据え、その周辺に管理棟とヴィラ14棟を配置した。客室棟は建物形状や間取り、プールと駐車スペースの位置、開口部の方向に変化をつけ、宿泊客の視線が交わらないようになっている。



客室の一例。何回も訪れる楽しみがあるようにと、間取りはすべて異なる。室内はアースカラーを基調とし、“つながり”をテーマにデザイン。



大きな窓が設けられ、屋外のテラスまで視線が広がるダイニング。テラスはバーベキュースペースにもなる。

①~⑤ photo: Ichi Nakamura



プライベートプールの一例。斜めに迫り出したバルコニーを設け、空間に奥行きと陰影が生み出されている。

DATA- URUUMI ONNA POOL VILLA (ウルウミ オンナプールヴィラ)

所在地：沖縄県国頭郡恩納村
用途：宿泊施設
構造：枠組壁工法
階数：1～3階建て
敷地面積：2,589.07㎡
建築面積：1棟あたり34.98～53.82㎡
延床面積：1棟あたり43.73㎡～129.38㎡
開発統括：(株)ファミリーコーポレーション
設計・監理：(株)コホーネス
施工：(株)エッジ・ファクトリー
構造材供給：(株)ダイリFPC
工期：2023年8月～2025年3月
法規制：都市計画区域外（容積率200%）